

【方言いろいろ】

小池有二（19 期/昭和 43 年卒）

小生が見聞きした方言文化を書きます。

わたしは、島根で生まれて、関西を経由して関東へ流れた経歴ですから、話しぶりが出雲弁と関西弁と関東弁の3つのミックスになっていて、これが素性不明に聞こえるようです。少し親しくなると「生まれはどこなの？」と突っ込まれることがあります。

出雲弁は「ズーズー弁」と言われますが、これはシガスになる訛りを指します。以前、ソフトバンクのCM（白戸家）に悪代官編 というのがありました。「スマネー」という謝り言葉が代官にとがめられる。最後に上戸彩が「と、言う悲しいお話が、スマネの語源です。」とまとめます。

何のことか分からない方は、YouTube のアーカイブをご覧ください。

[こちら](#)

上戸彩はこのセリフのために出雲弁を練習したのでしょうか。ネイティブに近い「ス」の発音を聞かせます。

出雲弁のもうひとつの訛りはヒガフになる訛りです。一畑電車に雲州平田という駅がありますが、これはウンスーフラタとなる。明治生まれの祖母はこれでした。このようにダブルで訛ると、他国の人にはかなり通じにくいと思われます。

関東訛りで有名なのは、ヒガシになる訛りです（ヒとシの入れ替わりもある）。アサシシンブンとか、シビヤコウエンとか言いますね。東京人にこれが出ます。千葉も同じです。千葉弁にも独自の言葉があります。「したっけ」（そしたら）は、標準語で話す千葉県人の口に、ときどき出ました。手短かに補足したい、あるいは結論を言いたいときなど、急ぐと出るのでしょう。

もうひとつ、東京人の話しぶりの特徴に、「オチがない」ことがあげられます。会社の仲間に八丁堀生まれの男性がいて、こんなことを言うのです。「秋葉原のね、ホームに立ってると分かるんだよ」「え？何が？」「いやね、千葉の人は分かるんだよ」。これに、「あーそお？」と返して、続きの言葉を待つのですが、続きは出なくて、これで終わりなのです。関西でこういう話し方をするとしつこく聞かれます。関西人は話題を振ったら、オチをつける、そういう文化ですから。

京都人の訛りは、関東と逆で、シガヒになります。七条通は市内南部の重要な幹線道路で、その東



端の東山七条という交差点には、東山七条（ヒガシヤマナナジョウ）というバス停があります。昔は市電の電停もありました。「七条」は正しくは、シチジョウなのですが、京都人はシをうまく言えなくて、ヒチジョウになる。市電や市バスでヒチジョウと言ったら乗客を混乱させるという心配から、「七条」はナナジョウと呼ぶのが、京都市交通局のグローバルセンスなのです。

東山七条から西に行くと七条大橋のたもとに京阪電車の「七条駅」があって、これはシチジョウエキと読ませる。横のバス停「七条京阪前」はナナジョウケイハンマエと読ませる。というちょっとした珍風景になっています。

出雲弁の話にもどります。島根の小学生の交通安全標語に、「ばんげには 反射たすきが えとまっしゃい」というのがありました。これは秀作です。どこがいかというと、一番目に「えとまっしゃい」という、ぎりぎり全国に通じそうな言葉選び。二番目はシやヒの音を使わないでまとめていることです。ほどよく緊張感があって、方言の味を出して、全国に通じる構成になっていました。

令和2年1月14日掲載